

悲話

上田砦

古川九兵衛物語



# 第1章 神戸城の出城 上田砦

ここにお城があったの？



そうです。神戸城の出城があったんですよ。



国学者 萱生由章





曲輪の内部には、館や侍長屋、足軽長屋、雑兵長屋などが並んでいたし、物見櫓もあったんですよ。



国学者 萱生由章



広大な土地で、建物だけでなく、田んぼや畑もありました。



国学者 萱生由章





慶長5年（1600）、神戸城の主は滝川勝利（たきがわかつとし）。その出城上田砦の城主は古川九兵衛でした。



国学者 萱生由章



岐阜県に古川町という町がある。古川九兵衛はその古川一族の流れをくむ武将だったのです。



国学者 萱生由章



1600年9月14日

滝川様は、西軍（豊臣軍）として戦うため、関が原に向かわれた。  
もう着かれたでしょうか。

そやなあ。  
2日前に出発されているから、そろそろ到着して、陣を張っているのではなかろうか。

家来 弥平

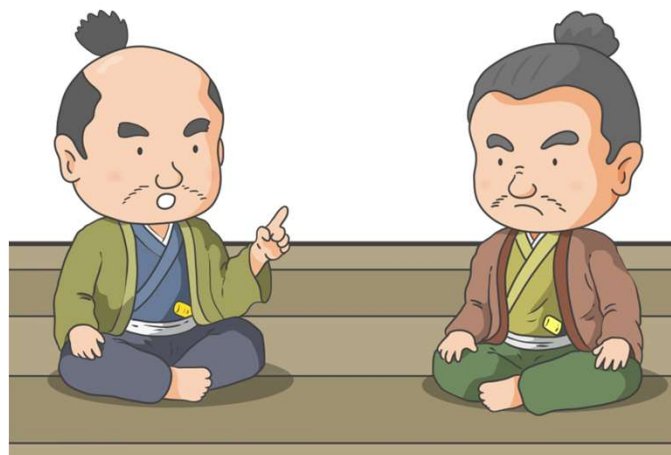


古川九兵衛

しかし、わずか400人  
程度の兵で大丈夫でしょ  
うか。

伊勢方面には、東軍（徳  
川軍）についている大名も  
いるから、われらがこの城  
を守らねばな。

家来 弥平

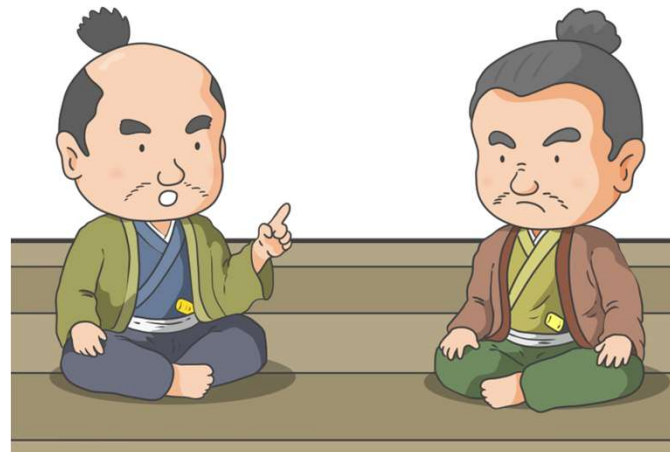


古川九兵衛



そのために、関が原へはその人数でよいと石田三成様に言われたそうだ。

殿には城をしっかりと守るように言われておる。



家来 弥平

古川九兵衛

## 第2章 関が原の戦い

慶長5年（1600）9月15日、関ヶ原で、西軍豊臣方と東軍徳川家康方による天下分け目の戦いが行われた。





午前8時、東軍7万5千は中央の平地に、西軍8万は周囲を取り囲む小高い山に陣地を張り、にらみ合った。



家康軍の井伊直政と松平忠吉の軍の銃声により、合戦の火ぶたが切って落とされた！





しかし、一進一退の攻  
防が続く中、島津軍は戦  
いに参加しようとしな  
ない。



西軍 島津義弘

叔父上！ わが軍はどの  
ように戦うおつもりか！



島津豊久

実は、こんなことが  
あって、参加をためらっ  
ておるのじゃ



島津義弘



## 戦いの直前

島津は70万石もあるのに、たった千5百の兵しか出さぬのか。それでは、貴殿のいう戦法など聞き入れるわけにはいかぬ。



石田三成

だからと言って、墨俣にわれらを置き去りにして出発してしまうとは、けしからん！



島津義弘

# 戦い当日

三成殿。島津は島津の戦いをいたします。

島津義弘

義弘殿。今すぐ兵をお出しくだされ！ さすれば、勝利間違いなしですぞ！

石田三成



西軍は東軍に寝返る大名が続出し、東軍の勝利目前！  
どうする義弘！！



家康軍に戦いを挑んで、華々しく散る？  
逆族となって、島津が滅びることだけは避けねばならぬ・・・  
よし！ こうしよう！



島津義弘



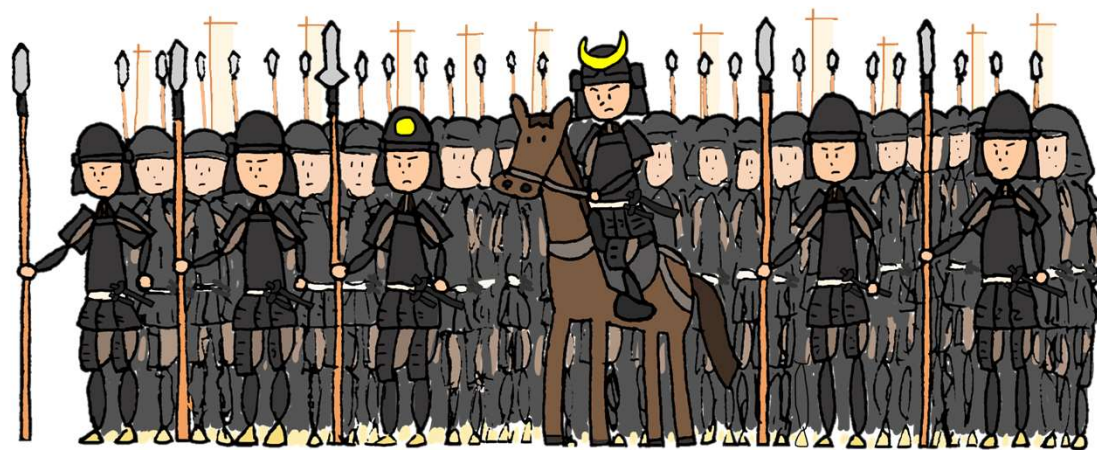
午後2時

皆のもの！ 家康軍の  
正面を突破して、退散し  
よう！



島津義弘

オオー!!!



敵に向かって前に退くという、前代未聞の戦法！これはのちに「島津の退き口（しまずののきぐち）」と言われるようになりました。

さあ、どうなったのか見てみましょう



こんな形になって、  
突進していったんだ。



先頭は  
島津豊久



戦って  
義弘を守る

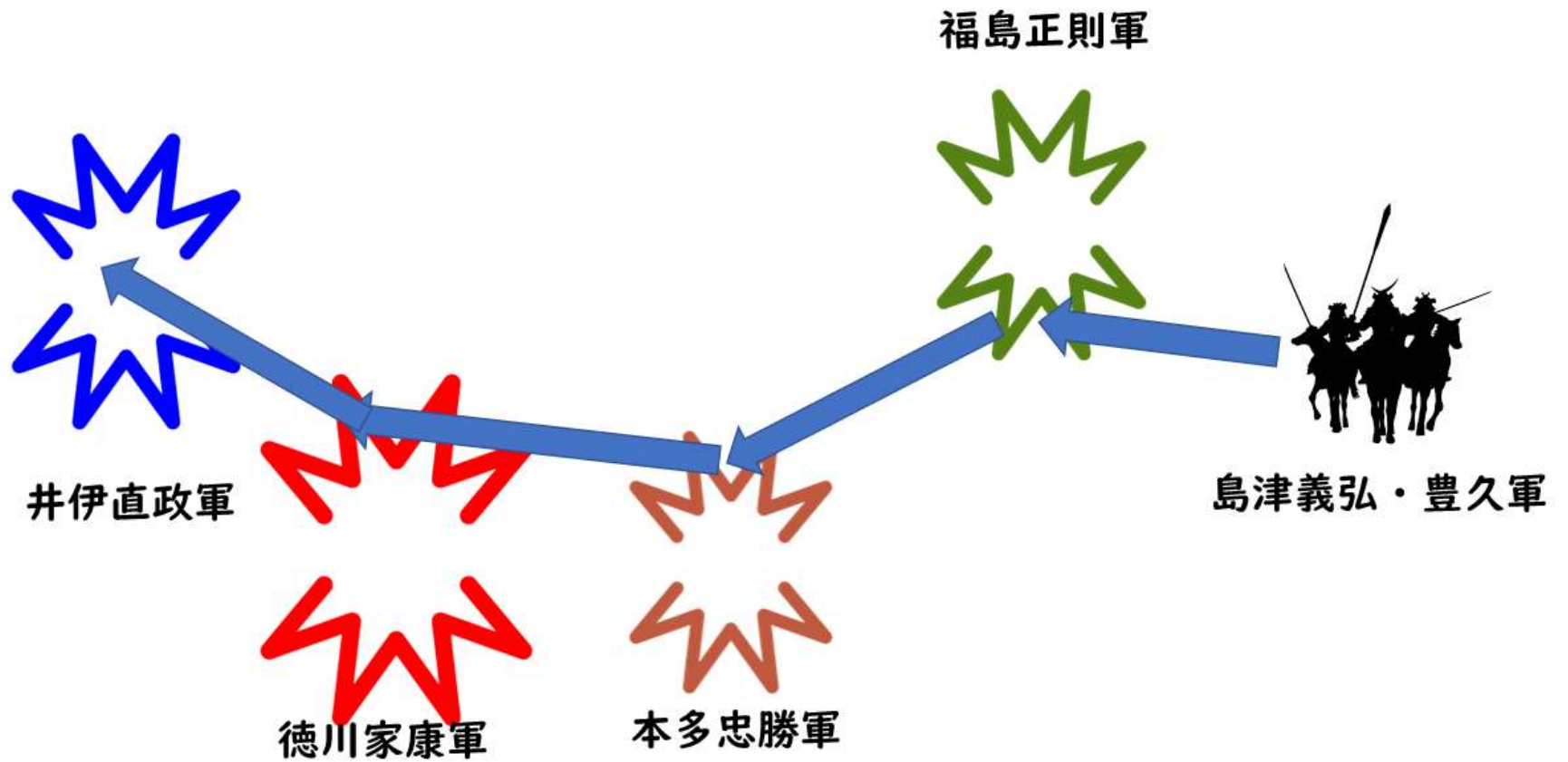
島津義弘



戦って  
義弘を守る







多くの兵士が犠牲になりながら、島津義弘を逃そうと頑張りました。



井伊直政の軍との戦いで、島津豊久は戦死してしまっただ。







敵を惑わすため、いくつかの隊に分かれて、逃げました。

翌日、島津義弘軍の落ち武者らが石薬師にたどり着きました。



石薬師  
上田砦

## 第3章 古川九兵衛と島津軍

傷を負っております。  
どうぞ休ませてください。



島津義弘一行

傷の手当てをして、体  
力を回復してください。  
ゆっくり休んでください。



古川九兵衛

## 三日後

古川殿。このご厚意、  
一生忘れません。



島津義弘一行

まだまだ、薩摩は遠ご  
ざいます。どうぞお気を  
つけて



古川九兵衛

数か月後、神戸城主だった滝川勝利は西軍についていたため改易され、新しく、関ヶ原の戦いで功績のあった一柳直盛（ひとつやなぎなおもり）が神戸城主となった。





徳川の時代となり、上田砦も平  
和な日々を送っていたが・・・  
ある時！！！！



そちに尋ねたいことがある。

関ヶ原の合戦の時に、敵方の島津が薩摩に逃げ帰った件を調べておるが、そなたが匿ったというのは本当か？



四日市代官 水谷久佐衛門

ははあ～  
拙者、武士の情けで島津殿をお助けいたしました。



古川九兵衛

つまり、敵側豊臣軍の  
兵士を匿ったということ  
だな。



四日市代官 水谷久佐衛門

その通りでございます。



古川九兵衛

豊臣軍を助けたことは、  
重罪である。

しかし、その潔い武士の  
情け、あっぱれである。砦  
の兵とそなたの一族はおと  
がめなしとしよう



四日市代官 水谷久佐衛門

ははー



古川九兵衛



九兵衛は罪人として、処刑されました。  
上田砦も取り壊しになりました。

しかし、400余年後の現在、古川一族  
は生き延びて、今もご子孫が鈴鹿に住んで  
おられます。



九兵衛に助けられた島  
津軍の義弘たちは、こん  
な歴史があったことはご  
存じないでしょうねえ…

【上田砦と古川九兵衛】

石薬師本町の本陣(ほんじん)小沢家に生まれ国学を修めた萱生由章は著書の三国地誌に慶長五年(1600年)、徳川家康と石田三成が戦った関ヶ原の戦いで敗走した薩摩島津軍と、この上田砦と城主であった古川九兵衛の事を書いている。

「神戸城出城の上田砦は上田の火の坪にあり、城主古川九兵衛は薩摩島津軍が関ヶ原の戦いで敗北・敗走した際上田砦に三日間程滞在させ助けたとある。」

飛騨国古川を発祥の地とする古川一族の流れをくむ古川九兵衛は織田信長の伊勢攻略(1567年)に滝川一益配下として戦いに参加し、采女城や木田城・高岡城と転戦し武功を挙げ、織田方と神戸具盛との和睦の際、信長の三男織田信孝の寄騎衆として1568年家臣に取り立てられ神戸城に入場する。

四国討伐の際は信孝配下として参戦、

1584年小牧長久手の戦いでは信孝の兄である織田信雄に従い神戸城で秀吉軍の蒲生氏郷と戦った。

神戸城が秀吉の配下となり滝川勝利が城主となったが九兵衛はそのまま勝利に仕えその後、神戸城の支城として上田砦を築城した際に城主となる。

上田砦の場所や規模等の詳細が確認出来る資料はまだ発見されていないが、これ迄の調査結果から上田公園を含むこの辺り一帯にあったものと思われる。

この砦は曲輪の内部に館や侍長屋・足輕長屋・雑兵長屋等が並び中心部の火の坪には南向けの物見櫓が建ち、北側から東側に流れる蒲川に沿って田畑もあったようであり、鮎も沢山取れ伊勢神宮へも奉納されていた。

九兵衛が五十歳を超えた頃の慶長五年（1600年）関ヶ原の合戦が起こった。滝川勝利は西軍に味方し兵を率いて関ヶ原に出陣し、九兵衛は上田砦で領地の防衛と街道筋の警戒にあたっていた。

西軍に与していた薩摩島津軍は後に「島津の退き口」と言われる勇敢な退却戦で追っ手を振り切りちりじりばらばらとなって堺を目指すが敗走兵の一部が突如上田砦に現れた。九兵衛は同じ西軍の味方として島津兵の傷の手当てをし、丁重にもてなした上に食料を持たせて大阪方面に送り出したと伝わっている。

その後徳川の時代になって四日市代官水谷久左衛門の取り調べが行われて九兵衛は島津軍の逃走を手助けした罪に問われ知行の千百石は没収され、上田砦は跡形もなく解体された。

九兵衛は恐らく四日市代官所で斬首されたのだらう。

【九兵衛に助けられ薩摩に帰った島津兵は其の事を知る由も無い！】

【武士の情けは哀れなるかな！】

慶長五年（1600年）から四百余年、古川九兵衛氏のご子孫の方が鈴鹿市に在住しております。

令和五年七月

石薬師地区明るいまちづくり協議会